

2026年4月23日

各位

株式会社北洋銀行

ほっくーネイチャーポジティブ基金を通じて助成金を贈呈しました！ ～北海道の生物多様性増進に取り組む14団体へ総額1,300万円を助成～

北洋銀行(頭取 津山 博恒)は、新たなMissionの一つである「北海道の豊かな自然を守るとともに、利活用を促進することで、北海道らしい成長をリードします」を実現するため、北海道の生物多様性増進に関する取り組みを進めています。

その取り組みの一環として、北海道の生物多様性増進に取り組む団体を支援する「ほっくーネイチャーポジティブ基金」を通じて助成金を贈呈しています。2026年度は、14団体に1,300万円の活動資金を助成しました。本基金による助成は累計1億1,360万円(延べ218先)となります。

助成先は、特別天然記念物・絶滅危惧種の生息環境保護、繁殖環境の整備や特定外来生物の防除、植樹に加え、幅広い世代への生物多様性増進に関する教育等の活動団体を選定協議会による厳正な協議により決定しています。評価基準には、TNFDで自然資本の対象として定義されている「陸、海、淡水、大気」への寄与、北海道生物多様性保全計画(第2次計画)における圏域別の生物多様性保全方針に資する活動等を取り入れています。

当行は引き続き、北海道の豊かな自然環境の維持や生物多様性増進に取り組み、ネイチャーポジティブの実現と地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

【贈呈式の様子】



各団体における活動の詳細につきましては、別紙をご参照願います。

以上

《北洋銀行グループ サステナビリティ方針》

北洋銀行グループは「経営理念」と「行動規範」に基づく企業活動を通じて、当行グループを支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めます。

ほくー ネイチャー ポジティブ基金



本基金は、これまでの保全活動の支援に加え、生物多様性の損失を止めるだけでなく回復させる活動への支援を強化することを目的として、本助成制度の名称を「ほくーネイチャーポジティブ基金(以下、本基金)」へと変更し、新たな助成コースも追加いたしました。

主な原資は、「通帳レス口座」、「LINEスタンプ」および「WEB完結型ローン実行件数」です。通帳レス口座は北洋銀行アプリなど通帳デジタル化による紙通帳の印刷コスト相当額を、LINEスタンプはスタンプ売上の全額を、WEB完結型ローン実行件数はWEB完結型ローン手続にて削減となる郵送代等を当行が本基金に拠出します。これにより、お客さまは間接的に本基金へ参加いただき、北海道の生物多様性増進に貢献することができます。

2026年度助成先について

2026年度は総額1,300万円を助成します。助成先の選定に際しては「選定協議会」での協議に基づき、「増進コース」4先「保全コース」5先「啓発コース」5先の計14先に決定しました。

増進コース (助成金額上限200万円)

- ① 特定非営利活動法人キウシト湿原・登別
- ② クツチャロ湖等保全対策協議会
- ③ 夕張川自然再生協議会
- ④ 石狩川河口湿地調査隊

保全コース (助成金額上限100万円)

- ① 特定非営利活動法人北海道森林ボランティア協会
- ② 公益財団法人日本野鳥の会
- ③ 公益財団法人知床自然アカデミー
- ④ スウェーデンヒルズ町内会
- ⑤ 利尻島ウミネココロニーについて考える会

啓発コース (助成金額10万円)

- ① 特定非営利活動法人ピオトーポ・イタンキ in 室蘭
- ② 水車・アヤマ川自然公園を育てる市民の会
- ③ 道立公園植生研究会
- ④ 一般財団法人北海道大沼国際交流協会
- ⑤ 大沼ラムサール協議会

増進コース① 特定非営利活動法人キウシト湿原・登別

1. 活動名称 タヌキモ復活
2. 主な活動地域 登別市
3. 採択金額 190万円
4. 活動内容

キウシト湿原で大排水路に繁茂したヨシ等の植物の撤去、廃棄や排水路沿いに生えた不要な樹木の伐採、排水路周辺に生える外来種の駆除を行う。もともと湿原に生息している準絶滅危惧種のタヌキモ、ドジョウ、エゾホトケドジョウなどの水生生物が増加することを目指す。



増進コース② クツチャロ湖等保全対策協議会

1. 活動名称 里親制度でナガバノモウセンゴケの復活を期す
2. 主な活動地域 浜頓別町
3. 採択金額 200万円
4. 活動内容

浜頓別町に残された絶滅危惧種Ⅱ (VU) に指定されるナガバノモウセンゴケの保護回復に取り組む。

本事業では、当エリアの一部に遮水シートを入れて土壌の乾燥を防ぎ、生育個体を移植する。また、町民を対象とした里親制度で個体の保護育成を行い、2・3年目に現地へ移植することで回復を目指す。

自生個体群が絶滅する事態も想定し、3Dスキャナー・3Dプリンターを用いた立体データ取得にも挑戦する。立体模型は本種のPRにも活用する。

増進コース③夕張川自然再生協議会

1. **活動名称** 栗山町・里川の「環境見える化」プロジェクトー環境DNA調査と成果発信シンポジウムによるネイチャーポジティブの推進ー

2. **主な活動地域** 栗山町

3. **採択金額** 200万円

4. 活動内容

環境DNA調査を活用して栗山町内の河川・湿地・農業水路における生物多様性を科学的に可視化し、その結果に基づき生物多様性の回復および新たな生息環境を創出する。

調査により生物相の低下や外来種の分布を把握し、重点地点を特定した上で、外来種対策、在来種生息環境の改善、住民参加型の里川再生活動を地域住民・行政・学校と協働する。

得られた成果はGISマップやシンポジウムを通じて地域に共有し、科学的根拠に基づくネイチャーポジティブな地域モデルの定着を目指す。



増進コース④石狩川河口湿地調査隊

1. **活動名称** ペケレット湖を核とした石狩川下流域の湿地や森林などの生態系の回復・創出プロジェクト

2. **主な活動地域** 札幌市

3. **採択金額** 200万円

4. 活動内容

石狩川下流域に残された数少ない湿地であるペケレット湖を拠点に、石狩川下流域の湿地の保全と再生を目指す。

水生植物群落や湿生林の保全・再生を科学的調査に基づいて進め、希少種の生育環境の回復・創出を図る。

生物の生活基盤である水質・水位や土壌のモニタリングを継続し、環境変化に応じた適切な管理手法の開発と導入を試行する。

環境省「自然共生サイト」への登録を実現し、全国的な保全ネットワークと連携するだけでなく、調査成果を地域住民、行政（札幌市）、および教育機関と共有し、環境教育や人材育成を組み合わせることで、持続的な保全活動の基盤を構築する。



保全コース①特定非営利活動法人北海道森林ボランティア協会

1. **活動名称** 『多様な生き物を育む巨木の森』つくりを次世代へ
2. **主な活動地域** 札幌市、江別市
3. **採択金額** 80万円
4. **活動内容**

札幌市澄川都市環境林で整理伐として危険木、枯損木、株立木の伐採整理を継続している。伐採した樹木は各種活動に使うマキ、ホダ木、炭、杭、板などに有効活用する。

近隣の小学生を対象とした自然観察会や親子森林教室での育林活動、当地区を流れる川の水質調査やニホンザリガニ調査を通じて次世代の育成に繋がる活動を行っている。

野幌道有林では、動物による食害対策を最小限の範囲で講じながら野生動物との共生を図る取組みを目指していく。



保全コース②公益財団法人日本野鳥の会

1. **活動名称** 皆で守る・勇払原野河川・流域・湖沼湿原群保全アクション
2. **主な活動地域** 苫小牧市勇払原野
3. **採択金額** 100万円
4. **活動内容**

ラムサール条約で保全上重要な場所であるウトナイ湖では、近年急速に広がっている周辺開発により、その重要な生態系が失われつつある。この開発から勇払原野の自然を守り、次世代に繋げる活動を行っている。

ウトナイ湖を拠点として、「美々川」「勇払川上流」「勇払弁天沼周辺（苫小牧東部地域湖沼湿原群）」のそれぞれのゾーンごとの特色に合わせた「知る・伝える・つなぐ」アクションを実施し、「守る」活動に繋げていく。



保全コース③公益財団法人知床自然アカデミー

1. **活動名称** 知床ネイチャーキャンパス及び関連プログラムの実施
2. **主な活動地域** 斜里町
3. **採択金額** 100万円
4. **活動内容**

「SNC(知床ネイチャーキャンパス)2026」は知床世界自然遺産のクライテリアの柱である「海」の生態系とその保全についてオンライン講義と現地実習・演習で学生等対象に実施する。

「SNCリカレント クマ類管理」は2025年に大量出沒したことを踏まえ、第一線の研究者や実務者を講師に招き、全国の自治体、NPO、企業などの実務家等を対象に講義を実施する。「クマ類の生態と管理」「野生動物の保全と管理概論」「保全生態学」などワイルドライフマネジメントの基礎と応用を体系的に学ぶオンライン講義を行い、知床圏における対策実態について現地実習を実施する。その他、地元向けプログラムなども行う。



保全コース④スウェーデンヒルズ町内会

1. **活動名称** 環境福祉へ繋がる地域課題解決のための生物多様性保全活動
2. **主な活動地域** 当別町
3. **採択金額** 80万円
4. **活動内容**

動植物の専門家と住民が協働し、当別町スウェーデンヒルズ行政区における諸課題に共通する問題を解決するため、住民主体で生物多様性のフィールド調査を実施すると共に特定外来生物の駆除を行い、当該地区の「自然共生サイト」への認定を目指す。又、国際交流と環境教育を織り交ぜたイベントを、道内の専門家及びスウェーデンからの講師を招いて実施する。

自然としての生物多様性と人間社会における生物多様性という二つの視点に基づき、生物多様性保全活動を基礎に生態系サービスをウェルビーイングに組み込むことで、北海道の小さな田舎町から我が国を代表するような環境福祉モデル地区の醸成を目指す。



保全コース⑤利尻島ウミネココロニーについて考える会

1. **活動名称** 北海道利尻島におけるウミネコ保全のための野生化ネコ対策と啓発活動

2. **主な活動地域** 利尻島

3. **採択金額** 100万円

4. 活動内容

近年急速に減少している北海道準絶滅危惧種に指定されているカモメ類の保全を目的に、生態調査・環境教育・普及に繋がる活動を行っている。

ウミネコ繁殖期における被害状況調査では、ウミネコ繁殖期にコロニー周辺・内部を定期的に見回り、猫による捕食痕を記録する。

地域住民への啓発活動では、ウミネココロニー周辺の住民に聞き取りを行い、ネコへの餌やり状況や餌やりに関する認識を調査する。ウミネコ保全に関する住民向け勉強会を開催し、ウミネコの保全状況や野生化ネコのリスクを周知する。またフェリーターミナル等にポスターを掲示し、住民の理解を促進する。

野生化ネコの冬季TNR(捕獲・避妊去勢手術・放獣)活動では、ウミネココロニー周辺に生息する野生化ネコに対し処置を行う。冬季に実施することで翌春のネコの繁殖を抑制する。



啓発コース①特定非営利活動法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭

1. **活動名称** 「獲物のあるビオトープ」整備と子ども達の自然体験学習支援

2. **主な活動地域** 室蘭市

3. 活動内容

失われた室蘭の湿原をモデルに子ども達が自由に採取できる「獲物のあるビオトープ」づくりを進めている。地元の地に再生されたビオトープにおける動植物の採集・観察などを通じて、子ども達が教科書から離れた実際の自然環境を体験することで、自然に魅力を感じ、生態系を理解し、自然環境保全の意識を深めていく。

貴重な自然体験をした子ども達が、この地域全体の環境保全を理解し、将来的に環境保全の一助を担う人材を育成していく。



啓発コース②水車・アヤマ川自然公園を育てる市民の会

- 1. 活動名称** 市民協働で生物多様性の回復と増進を目指し、自然公園の魅力を次世代につなぐネイチャーポジティブ活動
- 2. 主な活動地域** 伊達市
- 3. 活動内容**

本活動では、四季折々の観察会やパネル展を通じ、公園の価値を広く発信している。また、笹刈りや植樹などの整備活動は、単なる環境美化に留まらず、本来の植生を呼び戻す「自然再興(ネイチャーポジティブ)」の実践の場となっている。特に伊達開来高校や企業との連携を強化し、多世代交流の中で生物多様性の重要性を啓発する。これらを通じ、開園50周年に向けた「自然とのつながりの実感」と市民の行動変容を促していく。



啓発コース③道立公園植生研究会

- 1. 活動名称** 真駒内公園のカタクリ自生地及び野幌総合運動公園の野草園の育成に関する活動
- 2. 主な活動地域** 札幌市、江別市
- 3. 活動内容**

真駒内公園「カタクリの里」に関する活動では、カタクリ観察路（790m）における階段や木柵などの補修、カタクリ自生地全般のササ刈り、観察路案内板の設置及び園内シラカバ林のササ刈り実施。真駒内公園の山野草の生息調査を行い、カタクリ群生地を含めた「山野草マップ」を作成、公園利用者への配布により生物多様性増進のための普及啓発を図る。

野幌総合運動公園「野の花の丘」に関する活動では、24種類の野草の見本園・育苗園の整備、セイダカアワダチソウ等の雑草の除去作業、花名板の設置、及び公園利用者の観賞用通路の整備を実施。野の花の丘の今後の継続活動に向けた花紹介・繁殖方法等のパンフレットの作成している。



啓発コース④一般財団法人北海道大沼国際交流協会

1. **活動名称** 大沼の水、地、生きものを知り、守る
2. **主な活動地域** 七飯町
3. **活動内容**

ラムサール条約登録湿地である大沼において、中高生を対象に、水鳥、樹木、キノコ、粘菌など豊富な生きものが水により育まれている様子を観察するとともに、大沼の水が汚染されアオコが発生している状況を確認し、対策を考え実行し、将来の指導者として育成する。

なお、本取組みは次年度以降も継続的な活動とし、今年度活動を行った中高校生が中心メンバーとなり、今年度の講師の指導のもと講師役の一端を担い、対象を小学生および自然に触れる機会の少ない大人にも広げていく。また、七飯町の姉妹都市であるマサチューセッツ州コンコード町との交流時に、国際自然保護ボランティア活動の役割も担えるように指導する。



啓発コース⑤大沼ラムサール協議会

1. **活動名称** カリマ浄化エリアの自然共生サイトを目指して
2. **主な活動地域** 七飯町
3. **活動内容**

七飯町では、平成23年に環境省事業である「湖沼自然浄化活用事業」により、軍川地域に河川の一部を引き込み植物により、水質を浄化する人工湿地を建設した（通称：カリマ浄化エリア）。七飯町にて草刈りや浚渫等を行い、良好な湿地環境が整えられている。

しかし、ウシガエルやアズマヒキガエル、オオハンゴンソウなどの外来生物の侵入が確認されており、さらには周辺地域にてアライグマの痕跡も発見されている。カリマ浄化エリア内ではクイナやカイツブリ、ハクチョウなどの鳥類や昆虫類、魚類等多くの生き物が生息するため、七飯町と協力し、外来種対策を行い良好な湿地環境を保全し、さらには自然共生サイトへの登録を目指す。